



【セルビアの医療関係者による横浜労災病院での視察の様子】

ヨコハマの国際事業の
主な動きをお届けする

YOKOHAMA INTERNATIONAL DIGEST

平成 29 年 7 月 4 日

【発行】横浜市国際局政策総務課

企画担当 045-671-4710

ki-somu@city.yokohama.jp

アジア開発銀行と連携してセブ市 で協議を行いました

6月20日に国際局職員がフィリピンに出張し、市内企業の海外展開に向けてセブ市やメトロセブの開発担当者、ADBのPPP推進室と、セブ市の廃棄物課題の解決を図るための協議を行いました。

ADBは、本年5月に横浜市で開催された第50回総会時に、横浜市の協力によりセブ市で官民連携（PPP）支援を、アジア・太平洋プロジェクト組成ファシリティ（AP3F）を通じて行うことを表明しています。



市内企業により JICA 中小企業普及実証事業で設置された汚泥脱水装置の様子。

また、JICA の地方自治体と連携した無償資金協力により実施が予定されている、メトロセブの汚泥処理プロジェクト着手に向けた現地調査を行いました。

セルビア共和国の乳がん対策 に協力しています

横浜市は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施している「セルビア国国家乳がん早期発見プログラム改善プロジェクト」に協力し、同国政府の検診事業を中心とした乳がん対策の能力向上を支援しています。



このたび、同国の医療関係者（医師、診療放射線技師）からなる研修員9名が来日し、日本の乳がん対策について学ぶ研修に参加しました。

6月20日（火）には、横浜市庁舎を訪れ、健康福祉局より横浜市が行うがん検診について講義を受けた後、渡辺巧教副市長と面会しました。21日（水）は、横浜労災病院、横浜市立市民病院において、各医療機関における取組について学びました。

アフリカ・タンザニア連合共和国 大使が横浜を訪問しました

マチアス・メインラッド・チカウエ 駐日タンザニア連合共和国特命全権大使が6月22日に横浜を訪問し、林市長と面会しました。



本市は、JICA（（独）国際協力機構）の事業を通じて、港湾局や水道局の職員をタンザニアに派遣したことをはじめ、約50人のタンザニアからの研修員を受け入れてきました。また、平成25年の第5回アフリカ開発会議横浜開催の際に友好を記念してジャカラダの木をズーラシアに植樹したり、横浜ウォーター（株）が同国ザンジバルの水道施設の改善調査に取り組むなど、横浜とタンザニアには深い結びつきがあります。

